

日刊 産業新聞

Japan Metal Bulletin

(9)

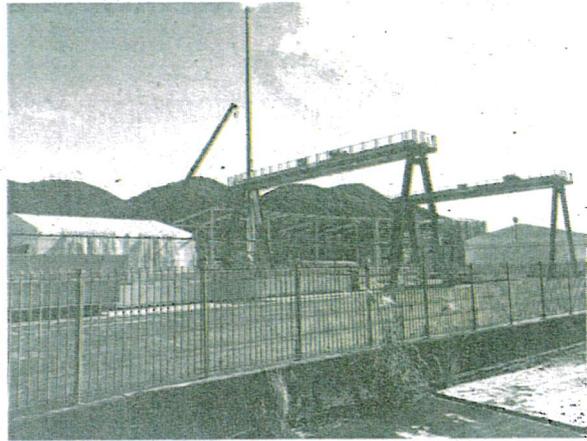
鉄鋼

(第3種郵便物認可)

日刊 産業新聞

桂スチール

BH製作能力を引き上げ



建設中の友延工場。小物建築部材の加工体制を充実化

BH・BT製作以外に、建築用の切板、梁加工などを手掛け、全社のBH製作量は昨年が月間平均で60000-65000ト。

最近の建築鉄骨の傾向としては三大都市圏を中心に、ビルの超高層化が進むとともに、工場・倉庫も大型化してきている。今後もちょうとした大型案件向けでは大型サイズのBHの需要が期待されている。一方で、働き方改革に伴う、残業規制や有給休暇の消化の義務化に準拠しながら、従来の規模の事業を維持していくにはさらなる設備の能力アップが必要となっていた。

このため、昨年3月に岡山県備前市友延町の土地(敷地面積約6万1000平方メートル)を購入。同9月から新工場の建設を進めていた。工場建屋建設に先行する形で、昨年秋季には新工場の隣に、鉄骨の製品ヤード(幅20メートル×長さ165メートル)を2カ所、全表面積約6600平方メートルを整備し、このヤード内に屋外の門型クレーン6基、および18メートル規模の移動式アンテナ2基を設置した。同ヤードでは自社で製作したBHなどの保管を行なうとともに、テナトでは吹付塗装なども行う。

新工場の建設概要はS造で、建屋面積が約7040平方メートル(40メートル×176メートル)。同工場の天井クレーンは20トが2基、10トが2基、4・8トが4基で計8基、これ以外に片門型クレーンが4基。建屋の完成は今年1月。

桂スチール(本社||兵庫県姫路市、三木桂吾社長は昨年から、岡山県備前市友延に新工場「友延工場」の建設工事を開始したが、今年1月には建屋が完成する見込み。完成後、BH(ビルトH形鋼)ラインを導入し、BH製作能力を引き上げ、BHの一次加工用の切断加工設備も増強するとともに、鋼板用の加工設備を設置し、小物建築部材の加工体制の充実化を図る。新工場を建設することで、全

社の生産能力を高め、残業時間規制などの働き方改革に対応するとともに、今後、関西の大型プロジェクト向けなどの注文が集中して入った場合でも、自社で平準化してこなせるようにしていくのが狙い。

同社は国内最大手のBH製作者で、工場は岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場(岡山県玉野市)、姫路工場(兵庫県姫路市)を有している。

建屋完成後、BHライン(溶接機2基、矯正機1基、組立機1基)、BH用の切断機4基(ウェブ高で最大1300ミリ対応)、2基、ウェブ高で最大1200ミリ対応)、2基、鋼板加工用にプラズマ切断機1基、開先機1基を設置する。来年3月頃から稼働させる予定で、BH製作とその一次加工能力の増強、さらにガセットプレートなど建築用小物部材の加工強化で全体の平準化に貢献させていく。